

## 特別支援教育と共に歩んで

平尾高王（教育・昭和58年卒）

昭和54年4月、私が香川大学教育学部に入学した研究室は、「特殊教育研究室」略して「とっけん」でした。それから、「障害児教育・心理・病理」を中心に学び、小学校に赴任したのが、昭和58年4月。

児童数が600名余りの中規模校でした。当時の特別支援学級は、「障害児学級」と呼ばれていました。学校の中での呼び名は、「〇〇学級」（〇〇は担任の姓）。担任の名前を付けた学級名は、ほかの学校でもあったようです。その頃気になっていたのが、「とくがく」という呼び名。「障害児学級」が、以前「特殊学級」と呼ばれていたときの略した呼び名でした。私には、どことなく負の響きに聞こえてなりませんでした。

その後転任し、2年後に自らも希望していた障害児学級の担任になりました。学級の名前は「太陽学級」。以前からの名前です。まさしく、この学級を学校の太陽にしたい。これが、その時の私の願いでした。

担任した時の学級の場所は、北校舎の1階で通常の学級の教室からは離れており、広さも通常の学級の約半分で、校舎建築当時の「特殊学級」の位置づけが伝わってくるようでした。2年目からの教室は、南校舎の2階で通常の学級からも近いところにある通常の学級と同じ大きさのところになりました。年度末の教室移動は、備品もたくさんあり大変だったのですが、子どもたちや先生方が手伝ってくださり、おかげで無事に終えることができました。学級を支えてくれたことに感謝と喜びを感じました。

また、太陽学級を児童会活動の中に位置付けてもらったり、太陽学級として校内に発信したりすることで、子どもたちが学級数を数えるときに、通常の学級だけでなく、太陽学級も含めて数えてくれるようになったのは、学校の太陽に近づけてきたことの一つなのかなと思いました。

学生時代の恩師からは、「この子らに世の光をではなく、この子らを世の光に」という言葉をいただきました。

特別支援教育が通常の教育との2本立てではなく、通常の教育の中に特別支援教育があることが当たり前になることが、形の上でも意識の中でも訪れることを期待し、それに少しでも力になればと思います。